

第1回岡谷市公共施設のあり方検討市民会議 会議録

平成19年6月25日

午後7時～8時30分

市役所605会議室

■ 開会

■ 委嘱書交付

■ 市長あいさつ

■ 委員及び職員自己紹介

■ 会議

1) 役員選出 委員長 浜一平委員 副委員長 原田裕子委員

2) 協議事項

①岡谷市行財政改革プランについて→プランの内容について説明（事務局）

②公共施設のあり方検討について→検討の進め方、見直しの基準（ものさし）について説明（事務局）

（質疑応答）

委員長：岡谷市行財政改革プランと公共施設のあり方検討の進め方について説明をしていただきましたが、この中で質問等ありましたらお願いします。

委員：諏訪湖を囲む他の市町村で、岡谷市と同じような動きや、やり取りがあるのかという情報や、類似施設があるのか知りたい。ものさしを作るため、諏訪湖を囲む市町村にどんな施設があるかによって、大きな影響があると思います。情報交換していることがあったら知りたいと思います。諏訪地区でまとまって検討したらどうですか。

事務局：諏訪地方の総体的な行財政改革の取り組みについてはそれぞれで進めています。原村などでは同じような行財政改革の計画があり、具体的に動いています。近隣の施設ということですが、具体的な話では、岡谷市の屋外プールを廃止し、すわっこランドのプールを利用させてもらう話も出てきています。相手の町との協議は必要になりますが、それぞれの町で施設を持つのではなく、近隣に施設があれば使わせてもらうという話です。近隣市町村の施設などの情報が必要な場合、調べて情報提供します。

委員長：庁内検討の情報は出していただけののですか。

事務局：具体的に決定したことはありませんが、ある程度のことは報告できます。まだ検討段階ではあります。

③意見交換

委員長：それでは意見交換に移ります。先ほど簡単な自己紹介を行いました、順番に公共施設に関して考えていることがあったら発言をお願いします。

委員：施設によって目的や、かかっている経費が大きいところから小さいところまでいろいろあるので、どうやって検討していくかが非常に難しい。最終的には公共施設のあり方検討の進め方に書いてあるように、残すのか、またはもう必要ないのか、という意見を出していく必要がある。この施設は1年間でどれくらいの経費がかかっているかデータをいただき、その中で検討していくというやり方がいいと思っています。

委員：経費削減ありきで見直すのではなく、施設を造ったときの当初の考え方というのをもう1度検証してみる必要があると思います。昔のことだからという感覚ではなくて、それが今この時代にどのようにマッチングさせていくかということが重要ではないかと思います。やはり当初の目的は無視できません。そのなかで市民感覚とずれが生じているのであれば補正をしていければいい。何でも壊して廃止していくことだけではどうなのか、また職員をどんどん削減していくというのはどうなのかという気がしています。非常に厳しい状況ということは理解できました。

委員：やはり公共施設は必要だし、必要があつて作ったと思いますので、ものさし作りというように、それぞれの施設の利用状況などのデータを把握し、より良い利用方法と、できるだけ民営化することも考えていかなければと思います。民営化して運営できる方法を考えていくのがこれからの流れだと思います。

委員：改革の実現には市民理解の上での提言が必要で、私たちの使命です。利用者の声を聞くなどして、将来へ一歩踏み出せばいいと考えています。

委員：やはり当初の目的というのがあり、その目的を達成しているのかどうか、また当初の目的だけの状態でもいいのか、この施設は他の目的を持って利用できるのではないのか、この施設は必要なのか、などの目的はとても大事です。目的達成のためには、利用者数が少なかったとしても残さなければはならないことにもなってくるかもしれないし、各施設がどのような目的で造られているかを知りたいと思っています。この施設が何のために使われていて、誰のために使われていて、それが当初こうだったけど現状はこうなってきたのでこんな風に目的を変えてみたいとか色々あると思います。是非目的という部分で勉強してからもう一度考えてみたいと思います。

委員：やはり目的は大事だと思います。公共施設を使わせてもらっている市民として一番疑問に感じることは、「この施設は何課です」、「何課に携わっている者でない」と分かりません」「こういう施設を使えるはずだが」「いやこれはだめです、何課へ行ってください」と、担当課が分かれるのは理解できますが、利用者側としては、課の目的から大きく外れると使えるはずの施設も使えないことを疑

間に感じます。特に福祉関係では乳幼児と高齢者で分けられてしまい、同じところを使えるとすごくありがたいのですが、一緒に使えず苦労したことがあります。また他の市町村のことを言わせてもらおうと、諏訪の間欠泉についてです。間欠泉の利用者が減り閉鎖するという話で、諏訪市民がかなり大変でした。閉鎖後、市民がすわっこランドを使えるかと思ったら「高齢者はダメ、乳幼児はダメ」と言われてしまいました。市民プールとして今までみんなが使えていたものがどうしてダメなのかわかりません。「今度の施設は市民プールではない、健康増進施設なんだ」と言われてしまう。そうなった場合にさっき言った目的をしっかりと考えて、今どういう人が使っているかをしっかりと踏まえて廃止しないといけない。今の利用者がどこも使えなくなるのはあってはいけないので、施設目的に合わせた問題点をもう一度拾ってから検討していく必要があると思います。

委員： 全国の市町村がそうだから岡谷も廃止していかなくてはいけないという考え方に凝り固まってしまうと、結局どこにでもある同じようなまちになってしまう。岡谷市だからこの施設がある、という視点だけは忘れないようにしなければいけない。このものさしづくりということで、それぞれの項目に対する一人ひとりの満足度はそれぞれ違うので、ものさし作りは難しい。もしこのような検討方法について、他の県や市町村のモデルケースがありましたら教えてほしいと思います。

委員： 私はどうしても金銭的な面で気になってしまうのですが、現在の収入と経費を差し引いて一施設だいたいどのくらいかかっているのか、それをある程度を目安にして、例えば将来4億7千万円近い経費を削減したい時、どこから手をつけていったらいいかという、金銭的な面からも見ていく必要もある。皆さんがおっしゃる目的も大事ですが、金銭的な面からも見ていく必要もあると思います。実際どれだけの経費がかかっているかを知ったうえで検討していけたらと思っています。

委員： 家庭に例えたら、収入が少なければ配分（使い道）を考える必要がある。一律の削減ではなく、年度によって目標や目的を変えるなど、弾力的なものがあったらいい。市民サービスとは何かを考えていったらどうでしょうか。

委員長： 当初の目的を考え、民間への委託も考えられる。使い勝手を考えて進めた方がいいという意見もありました。公共施設への意識改革が必要だと思います。

委員： 施設の検討なので、会議室のある施設があったら巡回したらどうですか。見学する手間が省けます。

事務局： 現場を見て分かることもあります。施設の担当職員の話聞いてもいいでしょう。今、施設の実態調査をしています。次回に間に合うかわかりませんが準備しています。検討のモデルケースは名古屋市にあるようですので、次回までに

資料を用意します。

委員長：ものさしの基準はレベルを合わせ、施設を判断する基準になるようにしたいと思います。

委員：市有施設の調査はどんなことを行っているのですか。

事務局：利用者数、経費、職員の人件費などで、各施設を同じ基準で見られるように調べています。例えばテクノプラザは工業振興のための施設で、そのための職員と、貸し館も行っていて、施設の運営に関わる職員もいます。施設ごとに区分けがあるので、同じ基準で見られるよう調査を行っています。

委員：確かに利用者数なども知りたいのですが、利用者が幸せを感じているかという満足度や、その施設を利用してどう感じているかなど普段の様子も知りたい。データ以外のことになってしまい難しいかもしれませんが、可能であれば知りたいと思います。利用者の気持ちが気になります。

委員：利用者の声もやっぱり気になるし、何らかの判断材料になると思いますし。どこかで利用者アンケートを見たような気がします。

委員長：経費も重要ですが、少数意見の把握も必要かもしれません。

事務局：カノラホールで利用者アンケートを行っています。いい方法が見つけれればと思います。

委員長：委員さんごとに次回までに考えていただき、持ち寄っていただけますでしょうか。

委員：ある町では曜日でバスの運行を代えています。そんな方法もあると思います。施設を廃止する場合、利用者の後のこと（代替施設）を考える必要があります。

委員：対象施設の利用者にアンケートを取ることはどうでしょう。施設を使っていない人に聞いても答えは無いと思います。

委員長：ある施設を設計した時、赤字の計算になったことがあります。公共施設なので赤字でもいいのですが、コストとの両面で考える必要があると思います。

事務局：庁内検討は1年先行し、2年計画ですが先が見えにくい状況です。例えば支所であれば、地元と市街地の人と職員とでは見方が違うし、昔と今でも違います。皆さんには大きな見方で意見を出していただきたいのでよろしくお願いします。

■ 閉会